

春が
おす
すめ

No. 1 4 源氏物語（宇治十帖）

ゆかりの地に花と緑を訪ねる

自然

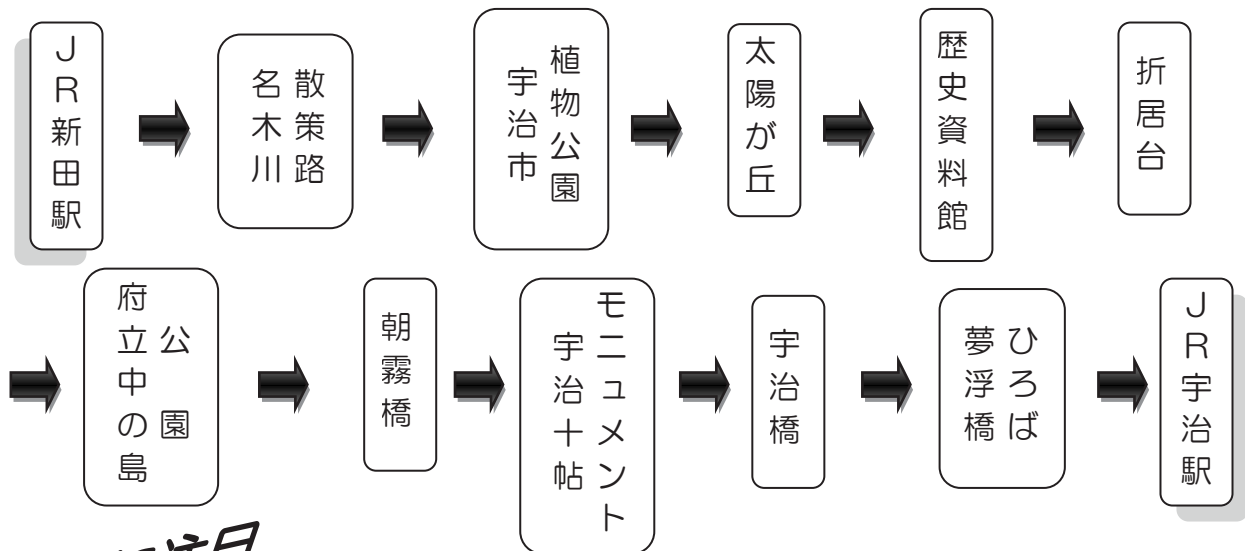
歴史

源氏物語

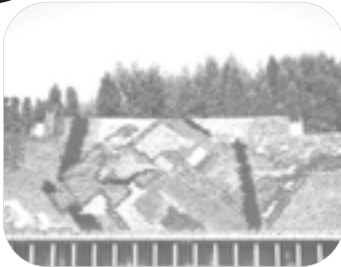
おすすめポイント

JR新田駅をあとに、名木川沿いに路を辿り植物公園へ。フラワーブリッジの花の彩りに心を奪われ、花と水のタペストリーにしばし疲れも忘れる。ゆるやかな坂道を歩めば、右に左に源氏物語にゆかりのある樹木と解説に出逢う。たちまち千年の昔にひきこまれそうだ。瀧の流れが宇治川の波しぶきを想わせ木々の葉のそよぎが宇治十帖の侘びの世界へといざなう。

太陽が丘を過ぎ歴史資料館を経てやがて朝霧橋に。其処には姫君と公達の織りなす綾にしきが、あでやかに漂います。



ここに注目



●植物公園タペストリー

1996（平成8）年10月に開園した宇治市植物公園内にある日本一を誇る大規模立体花壇。幅6.2m高さ1.8mの壮大な花壇に3,675基のプランターを並べ季節にあった植物で錦絵模様を織りなす。



●光源氏つばき

椿はツバキ科の常緑高・低木。花期は1月から4月で万葉集の歌に詠まれる程古くから庭木として重宝される。光源氏は淡紅地に紅の縦紋りや白覆輪が入るボタン咲きの大輪で古典椿。由来は源平時代の源氏の白旗を白端（白覆輪）にかけたものとも言われる。

